Historians　コメント集成　PART　3

番号	書名	読んだ人数	☆の総数	☆の平均
21	完璧な赤	13	38	2.9230769
22	砂糖の世界史	14	50	3.5714286
23	死刑執行人サンソン	17	74	4.3529412
24	絵で見るパリモードの歴史	13	41	3.1538462
25	排出する都市パリ泥･ごみ･汚臭と疫病の時代	15	39	2.6
26	大英帝国という経験	6	20	3.3333333
27	トラファルガル海戦	11	30	2.7272727
28	ヒトラー最後の12日間	16	59	3.6875
29	シャドウ･ダイバー	12	43	3.5833333
30	戦争広告代理店	19	80	4.2105263

完璧な赤

著者名	エイミー・B・グリーンフィールド	発行年	2006年
出版社名	早川書房	ページ数	321ページ
値段	2,000円	ISDN	978-4152087706

スペイン経由で輸入するしかなかった謎の染料コチニール。まさか、その正体はサボテンに付く小さな小さな虫だったなんて！　「色」の獲得に生涯を賭けた男たちにヨーロッパの強さを見た。

読者投稿欄

コメント登録	□コメントだけを登録する
お勧め度	○☆　○☆☆　○☆☆☆　○☆☆☆☆　○☆☆☆☆☆
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ( ) 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

コメント登録

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ひいら	1-21	おおっ！ 表紙のインパクト。装丁の勝利。 惜しむらくはカバーを取った後の絵画の解像度がイマイチなところ。 「西洋絵画の巨匠」（小学館）シリーズくらいの高精細だったらなあ。
2008/02/19 04:12:10	21P (5分)	
☆☆☆	表紙	

弟子	312-338	「colorless」という言葉は「pale」と同義であった。 和訳するとしたら「色が無い状態というのは青白いと同じであった」と訳せばいいのだろうか。つまり本来、色というのは青白いカンバスの上に塗られる絵の具であった。そういう意味で赤という色はもっとも「colorless」から離れた色である。「色が在る」という象徴のような色である。だから昔の人は赤を追い求めたのかもしれない。 「完璧な赤」という題名も気に入った。不完璧な赤ならいくらでも私たちの体内を流れているからね。
2008/02/18 20:09:44	27P (15分)	
☆☆☆	カバーをめくって	
O'rei	17-120	「赤」に対して置かれた大きな価値。「赤」を巡る歴史的な視点は読書欲をそそられたが、読んでみて、あまりにも微に入り、細に入り過ぎている。よく調べられてはいるが、飽きてしまった。
2008/02/18 13:27:31	104P (120分)	
☆☆	プロローグ（笑）17-21	
謎の男	8-40ページ	パッションを表すから就職活動には良いとされている「赤」。 「赤」の意味や凄さがわかるんではないでしょうか。
2008/02/18 00:43:02	33P (18分)	
☆☆		
テレスコープ	227-229、248-249	「赤」は今でも、どこか妖しげで、高級感のあるオーラを放っている。 「赤」をもう一度みなおすことのできる本。
2008/02/17 13:34:41	4P (15分)	
☆☆☆		
市戸瀬	17-56	完璧な赤を手に入れるまでの物語、なんだとは思いますが。 当時の人々にとっての「赤」の意味を知りたかっただけなので、第二章でそれが出てきて、それ以降読むのをやめてしまいました。 濫読って素晴しい（笑）
2008/02/16 14:45:31	40P (30分)	
☆☆☆	第二章	
テニスする人	1－120ページ	私の好きな色は“赤”ですが、歴史的にこれほどの奴とは思ってもいませんでした。赤に対しての思いの強さには感服です。 赤が好きな人も嫌いな人も、楽しむことのできる一冊です。
2008/02/12 00:18:50	120P (90分)	
☆☆☆	100－120ページ	
チョコボール向井	1-311	「赤」というのは情熱を表し、また血を表し、また灼熱の太陽の表現に使われたりする。それが関係してか、「赤」を巡る争いでは人々は情熱に燃え、戦いでは血を流し、灼熱の太陽のような意気込みで「赤」を追い求めた。「赤」という存在と「赤」に対する人々の行動が合致していて、読み応えのある１冊。
2008/02/01 14:35:10	311P (240分)	
☆☆☆☆	ページ数忘れた（赤を博打にするところ）	
のだめ	1-21,252-264	私はただの冊数稼ぎでしたが・・・。でも、最初の方の絵は、ぱらぱらめくって見るだけでも面白いです。
2008/01/28 17:41:09	32P (20分)	
☆☆☆	1-8	
ハイパー・ワイハー	17-70,100-212,252-327	コチニールが虫か種かで賭けが行われるほどだったことに驚きである。 むしろ、ハエ（蛆）が腐った肉から自然発生すると考えられていたことにさらに驚きである。 最初のカラーページの絵が、異様にうまいことにも、驚きである。
2008/01/18 17:44:22	243P (180分)	
☆☆☆☆	203-212	
凱	1-21,57-80,147-164	「赤」を求める人間同士の争いの物語。 コチニールをめぐってイングランドやオランダの海賊船が”正当に”スペインの船を襲う。 そこにそのほかのヨーロッパ諸国も参戦！！ で、結局ニコチールの正体知らねーのかよ！
2007/12/25 16:18:37	61P (140分)	
☆☆☆	152-155	
フェンリル	1-212,252-311	赤というものが歴史的にどれだけ価値があったのかを述べている、テーマがはっきりとした本。しかし、赤の政治的、世俗的意味合いを述べるのに３００ページは必要がないらしく、その大半が、赤を作るために必要な昆虫コチニールについて書かれている（種かどうかの論争）。 　国際的な視点からは、筆者はスペイン人に恨みが

2007/11/24 16:31:38	272P (180分)	あるのかと言わんばかりに、スペイン人を無能呼ばわりしている感がある。スペイン人に対して、あまりいいイメージを先入観から持っていなかった私ですら、スペイン人が可哀想に思えてしまった。 　この本はコチニールについて興味がある人には、とても魅力的な本であるが、赤という色についてだけ知りたい人は、私がお勧めした前半部分だけを読めばいいと思います。 　テーマがとても興味深い分、もったいない本。少し読むにはいい本だけど、長く読むにはつらい本です。サブタイトルに騙され、読んでいっても、結局コチニールだらけ。惜しい本です。 　私の今までの作品に比べ、コメントが一般的なのは、残念ながらテンションが振り切れるほど、感動を与えるタイプの本ではないと言うこと。
☆☆	38-70,165-212	
ぺんね	22-94	他のどの色よりも頻繁に登場するといえる「赤」という色の特別さに気づける本。「赤」という色を作り出すために人々が争う時代があったことが記されており、技術革新には争いはつきものだと痛感させる。今の資源がありふれた時代の裏側には表沙汰にはされない争いが秘められているのではと感じてしまう。
2007/11/12 01:42:00	72P (50分)	
☆☆☆	57-70ページ	

ＴＯＰへ

砂糖の世界史

著者名	川北 稔	発行年	1996年
出版社名	岩波書店	ページ数	208ページ
値段	208円	ISDN	978-4005002764

アジアのお茶とカリブの砂糖がイギリスで出会って世界が変わる。砂糖を基軸にコンパクトにまとめて便利だが、みんな白人が悪いのさ、という岩波流善悪史観にやや疑問も沸く。

読者投稿欄

コメント登録	□コメントだけを登録する
お勧め度	○☆　○☆☆　○☆☆☆　○☆☆☆☆　○☆☆☆☆☆
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ( ) 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

コメント登録

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
こわい	1-208	ものすごい斜め読みを実践。といっても中学のときに1度読んだことがあるので可能だっただけだが。 読み返してみると、砂糖と世界史と奴隷の歴史が半々になっていてタイトルから受ける印象と違和感がある。もっとも、砂糖の使われ方などの変遷が分かりやすいので、この違和感を受けない人も多いのだろうが。 1ページの分量が少なく、行間文字間があいているので非常に読みやすい。砂糖にまつわる簡単な読み物としてみればなかなかだと思う。
2008/02/20 09:22:52	208P (15分)	
☆☆☆☆	61-138・155-176	

フェンリル	1-138	甘党な私は砂糖なしにはまともに生活もできません。いまでは甘い砂糖＝女の子とかファンシーといった言葉が出てきますが、この本からは、砂糖の黒歴史に権力としての砂糖の姿が見えてきます。 華やかなヨーロッパをみてあこがれる人は多いですけど、あの国の歴史を知ってからもそのすべてにあこがれることは私にはできません。優れてものは必ず人の犠牲のもとにうまれたということののだろうか。 単純に見えて、ものすごく深いけっして甘くない本です。一読すべし。
2008/02/14 08:32:42	138P (70分)	
☆☆☆☆☆	112-138	
テニスする人	113－138ページ	イギリスと植民地の攻防を見ることができる。 砂糖の生産が植民地抜きでは考えられないことがわかる。
2008/02/12 15:53:35	25P (20分)	
☆☆	113-138ページ	
弟子	全部	私が始めて飲んだコーヒーはブラックでした。 二回目に飲んだコーヒーに私は砂糖を入れることを覚え、入れすぎて砂糖の味しかしなくなりました。 砂糖の話なのにどこか苦くて癖になる、そのくせすっきりとした味わい。 名は体をあらわす。題名に偽りなし。直球ど真ん中な本です。 あいまいな歴史の人物が見え隠れするあたりで高校時代に世界史を詰め込んだ頭が「ああ、なんかそんなやついたなぁ」と相槌を打ちます。エンリケ航海王、トマス・アクィナス、オリヴァ・クロムウェル、名前は思い出せど誰なのかを思い出せず数箇所もどかしく読んでいました。 文中では「砂糖が万病の薬」という箇所が面白かったです。今でも甘いものは自分にとって気付け薬になってますしね。（チョコレートホリックですが何か ああ、それとこの本の値段が208円になっているのは何かの冗談ですか？ １ページ1円
2008/01/28 01:38:44	208P (60分)	
☆☆☆☆	65-67	
ぺんね	2-208	大好きな砂糖を切り口に大嫌いな世界史をつまめる本。 とても読みやすい上に、万人が理解しとかなければならない奴隷制度は詳しく書かれている。型にはまらないで勉強できるよい本だと思った。
2008/01/27 13:27:55	208P (120分)	
☆☆☆☆	57-59	
O'rei	全部	甘くない過去をお持ちの砂糖さん。 でも、あなたが好きだよ。 砂糖を切り口にして、当時のヨーロッパの様子が観察できる。 切り口が単純なんで読んでてわかりやすい。かといって 内容が薄っぺらいわけでもないので楽しい。 砂糖のことも分かるし、ヨーロッパの歴史探索もできるので一挙両得ですよん。
2008/01/25 20:40:46	208P (140分)	
☆☆☆☆		
87	1－59	世界史には疎い私でもすんなりと理解でき、興味をもって読めた。 砂糖の見方が変わった。
2008/01/21 15:16:24	59P (40分)	
☆☆☆☆	44－59	
紺	pp. 2-208	「世界商品」砂糖について、大航海時代、奴隷制度、プランテーション、産業革命といったキーワードをちりばめながら、近代から今日に至るまでの歴史を描き出す1冊。 世界史の大航海時代にさっぱり興味が湧かない私にもわかりやす過ぎるくらいわかりやすく、通して読むのもあまり苦にならなかった。 第6章の終わりで少しだけ述べられている日本の砂糖の話にも興味がわいた。記されなかった地域、たとえば東南アジアや中国における砂糖の歴史も知りたい。
2008/01/14 18:00:23	207P (240分)	
☆☆☆	pp. 190-195	
大	11-90 139-153	今では当たり前のようにある砂糖が世界に広まった理由は「甘いから」、、、。それだけ？と思うかもしれないが、当時の甘味料の中では別格だったらしい。 イギリスが発展した理由も砂糖の取引らしいが、その背景に奴隷の過酷な労働が会ったことを忘れてはならない。
2007/12/13 04:41:29	93P (100分)	
☆☆☆	139-142	
トーマス	62-188	あまーい砂糖のあまくない歴史（奴隷や戦争など）が如実に記載されています。現代においても似たようなことが繰り返されているので改めて「歴史は繰り返すのだ」ということを痛感する今日この頃。
2007/12/06 23:21:44	121P (120分)	
☆☆☆	140-153 178-188	
のだめ	33-90,113-188	砂糖と世界史の結びつきが理解できるので、非常に面白いです。黒人奴隷たちが移住させられた裏側が書かれています。
2007/11/29 12:48:09	134P (40分)	
☆☆☆☆	61-90	

凱	全部	ジュニア新書というだけあって、読みやすかった。 しかし、内容はとても整えられていた。 「砂糖のありところに奴隷あり」 栄えるものがあれば、飢えるものがある。 光があれば影がある。 あなたは、砂糖を奴隷をどのように対比させるだろうか。
2007/11/15 18:30:49	208P (180分)	
☆☆☆	52-59ページ	
kazupi	1-208ページ	高校で学んだ近世からの世界史を，身近ながら我々の生活になくてはならない砂糖を中心にして読み返すことができる．大航海時代，奴隷貿易，産業革命などの時代から現代の我々の生活までの流れが，まさか砂糖によって繋がるとは思ってもいなかったので驚き，そして興味をそそられた．
2007/11/14 13:55:24	208P (120分)	
☆☆☆	全ページ	
ハイパー・ワイハー	12〜59、140〜153	貿易に伴う国々の発展には、砂糖が深く関係していた。奴隷に関しても砂糖が根源となっていて、とても興味深い。
2007/11/05 15:46:02	60P (90分)	
☆☆☆☆	二章	

ＴＯＰへ

死刑執行人サンソン

著者名	安達正勝	発行年	2003年
出版社名	集英社	ページ数	237ページ
値段	700円	ISDN	978-4087202212

極限の体験をした者が遭遇した底知れぬ苦悩。ギロチンを仕事場とする男は敬愛するフランス国王を我が手にかける。

読者投稿欄

コメント登録	□コメントだけを登録する
お勧め度	○☆　○☆☆　○☆☆☆　○☆☆☆☆　○☆☆☆☆☆
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ( ) 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

コメント登録

投稿者 / 投稿時間 / お勧め度	読んだ場所 / 読んだページ数と時間 / 立ち読みポイント	コメント
akkie	全部	ギロチンの導入により、死刑がかえって安易に、大量にこなせるようになってしまったとの指摘は、「より人道的な処刑方法」というギロチンの一般理解を修正する…専門家にはあたりまえのことかもしれないけど、私には新鮮でした。 どこまでが史実であり、どこからが脚色なのか判然としない部分もありますが、読み物として非常に楽しめる一冊です。
2008/02/20 08:14:19	237P (240分)	
☆☆☆☆		
紺	pp. 8-113	小さい頃から読んできた様々な小説に登場する死刑執行人。冷静で仕留めそこなうことなど決してなさそうだった彼らも、現実の世界では生身の人間だった、という当たり前のことを気づかせてくれる一冊。

2008/02/19 23:21:50	106P (150分)	立ち読み部分では、人に差別されながらも自分の職業を懸命に弁護する姿や、自分自身にもそう言い聞かせなくては生きていけなかった彼らの胸中がありありと立ち現われて切ない。 今この瞬間にも、世界のどこかで彼らと同じ苦しみを味わっている人が居るという現実を、他人事でなく受け入れなければならないと思わされた。
☆☆☆☆☆	pp. 41-45	
ＦＡＴ　ＢＯＹ	全部	処刑人の心が内面が丁寧に描かれています。読みやすいですが、、、日本にも死刑制度があることを考えるとなんともいえない気分になってしまいました。 死刑について考えさせられる１冊です。
2008/02/19 22:16:24	237P (180分)	
☆☆☆☆☆	8-46	
塩キャラメル	8-21	とっても読みやすい。 まだ読み途中ですがこれはつるっと全部読めちゃいそうです。 処刑人の話なので、暗い気持ちになってきますが・・・・。
2008/02/19 15:58:54	14P (10分)	
☆☆☆☆☆	8-	
つちのこ	1-237	読み出したらとまらなかった。死刑囚という職業の苦悩と葛藤が描かれている。主人公の心情が上手に表現されていて非常に引き込まれ共感した。まず導入部分を読んでみてください。おすすめです。
2008/02/19 01:03:16	237P (200分)	
☆☆☆☆☆	序章	
大	全部	死刑執行人。人を殺す職業。 殺されるよりは良いと思ったが、つらいことも多くある。 フるのとフられるのどっちがいいか、、、。 少しだけ似ている部分があるかもしれない。 ただ嫌われたくはありません。 この本はすらすらと読めるので読みやすい。
2008/02/17 18:19:58	237P (160分)	
☆☆☆		
市戸瀬	178-239	サブタイトルにもある「国王の処刑」の部分だけを読んでみました。 処刑する前の「何とか回避する方法は無いだろうか」という問いに苦しむ様子も、処刑した後の「一線を越えてしまった」ことに対する苦悩もひしひしと伝わってきました。 立ち読みポイントは「人道的な処刑方法」であるはずのギロチンについての考察です。
2008/02/12 20:35:55	62P (75分)	
☆☆☆	228	
テニスする人	7－29ページ	死刑人ってつらい仕事であることを実感させられる。人々から忌み嫌われても自分たちではどうしようもない・・・ この時代の社会の負の一面を垣間見ることができる。
2008/02/12 15:49:58	23P (20分)	
☆☆☆	7－29ページ	
フェンリル	8-46、220-241	死刑執行人という特殊すぎる職業は、代々その一家が受け継がれていく。では、1代目の人はどのようにして執行人になっていたのか。 　執行人という人々から疎まれる職業につく一族の心の葛藤が心を引きつける。 　人間らしくない職業の人間らしい一面がわかる本である。
2008/02/12 02:03:36	61P (90分)	
☆☆☆☆	8-20	
O'rei	全部	死刑執行人に着目した歴史の切り口が新鮮で、内容的にも面白みがあった。サンソンの生き方、考え方にはすごく共感できた。一気に読み進んでしまった。ノンフィクションの醍醐味を感じた。 　さらに、フランス革命の時代を生きたひとの本を読みたいと思わせてくれる本であった。
2008/02/11 14:40:56	237P (240分)	
☆☆☆☆☆	166-187	
ひいら	1-237	タイトルを見たかぎりでは絶対に面白くない本だと思ってたのに！ 　荒木飛呂彦「ジョジョの奇妙な冒険」第7部の主人公、ジャイロ・ツェペリのモデルとなった人物でもあるそうで、たまたま本屋を通りがかったらコミックの平台にこの本がジョジョの絵の入った帯が巻かれた状態で置いてあってぶったまげました。 　生まれながらの死刑執行人の一族として、罪を犯した人を殺すことを宿命付けられた人間の誇りと苦悩。 ” 人道的立場 ” から開発されたギロチンの辿った、残酷な運命。 　死刑というもののありかた、人間が人間を罰するということの意味を、根本から問い直す本です。
2008/02/11 01:44:13	237P (180分)	
☆☆☆☆☆	41-46	
announ	1-237	死刑執行人の立場や死刑執行方法などなど、一見グロい本のようですが、恋もあります。意外とすらすら読める本です。 でも、最後の方は意見の押し付けのような気が・・・
2008/02/07 18:27:07	237P (240分)	
☆☆☆☆		
sala	8-239	死刑制度について執行する立場から語ることは珍しく、新鮮でした。 自分の中で結論が出るかどうかは別として、死刑制度の是非を問う上での判断材料は増えると思います。
2008/01/19 20:16:52	232P (300分)	

☆☆☆☆☆		立ち読みなどではもったいない！全部読むべきかと。
チョコボール向井	全部	いままで自分が知ることが無かった世界が鮮明に描かれていました。タイトルだけ見て選んだこの本がこれほど深いものだとは予想もしておらず、深く考えさせられる本でした。
2008/01/14 13:36:44	237P (240分)	
☆☆☆☆		
のだめ	7-218	非常に面白いです。死刑執行人だからこその苦悩が書かれています。ある意味、これから始まろうとしている裁判員制度と酷似するものがあると思います。非常に読みやすい本だと思います。
2007/12/21 16:57:26	212P (180分)	
☆☆☆☆☆	68-73	
弟子	全部	鉄腕アトムというマンガを知っていますか？ 機械に生まれたロボット、アトムが、機械として人間に仕えようと努力する反面、自分が人間に近い存在であることに悩み、人間的感情を持つべきか機械として感情を捨てるべきかというジレンマに苦しむ作品です。かなり局所的な解説ですが間違ってはいないはずです。 この本はその逆です。死刑執行人として国王に忠誠を誓ったサンソンが、人間としての感情を持つ反面、機械的に人間を処刑しなければいけないことのジレンマで苦しみます。最終的には誓っていたはずの国王、ルイ16世を処刑しなければならなくなります。 アトムが地球の危機を救うために、人間的感情を捨て爆弾を抱え太陽に突入するところと、サンソンが、法の下の道具として、慕っていた国王を、最終的に感情にながされずに処刑するところとが、妙にかぶりました。 死刑執行人という名前の本で、黒いのや気持ち悪いのが嫌いな人が敬遠しているのかもしれませんが、この本にはそこまできつい描写は出てきません。多少その執行している箇所は読んで想像したくない箇所はありますが、それでもかなり少ないのでそこだけ飛ばしてもらっても結構です。少なくとも「カラシニコフ」よりはグロくは無いと思いますよ。 立ち読みポイントは例の国王処刑の箇所。この箇所を読んで少しでも興味を持ったら初めから全部読んでほしい。いかに国王処刑が重い物であるのかがわかるから。 読後、インドネシアで昨年死刑制度が廃止されたときに、最後の死刑執行人に記者が「執行人をやめたいとは思わなかったのですか？」との質問に「自分がやめても誰かがやる仕事だ。それならば自分がやったほうがましだ。」と返したのを思い出した。
2007/12/06 04:43:09	237P (90分)	
☆☆☆☆☆	177-198	
凱	全部	今まで知らなかったことが、つらつらと書いてあった。 死刑執行人の苦悩。 たぶん、これを読んだだけでは分からないだろうが、考えるきっかけにはなる。 「国王の子は国王に、処刑人の子は処刑人になる」 違いは・・・一方は頂点に、一方は最底辺に・・・ これが覆ることは決してない・・・。
2007/11/29 10:32:35	237P (200分)	
☆☆☆☆	175-176 & 197-198	

ＴＯＰへ

絵で見るパリモードの歴史

著者名	アルベール・ロビダ	発行年	2007年
出版社名	講談社学術文庫	ページ数	332ページ
値段	1,150円	ISDN	987-4061598003

直径2メートルのパニエでスカートをふくらませたあとはエスカレートするいっぽう。頭上高々と帆船を編み上げたり、リボンと羽根飾りてんこ盛りのボンネットの貴婦人たち。ちょっと着てみたい……かも。

読者投稿欄

コメント登録	☐コメントだけを登録する
お勧め度	○☆　○☆☆　○☆☆☆　○☆☆☆☆　○☆☆☆☆☆
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ( ) 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

コメント登録

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ＦＡＴ　ＢＯＹ	53-168、229-262	絵を見てるだけでも十分楽しめます。 でも現代のパリコレやら東京コレで見たようなのもあったりして、、、流行は繰り返されるんだな、と。 あと、私には108ページの「シャ
2008/02/20 03:07:41	150P (100分)	

☆☆☆☆	237-243	ルル９世時代の喪服」がディズニー映画の悪役にしか見えません。
キングジョー	127－227	サッカーのバルサにいるアンリが好きなので、アンリ三世の所から読んでみました。 挿し絵がふんだんに使われていて、すごく分かりやすい。けど興味ない話だったな。
2008/02/19 23:02:46	100P (120分)	
☆☆☆☆	127－141	
大仏君	126－197	今、読むと当時のファッションがとても滑稽に思える。 時代が変わるとともに何が美しいかという感性も変化していくということが、ファッションの観点からよくわかる。 コルセットの弊害の具体的描写はとても面白かった。矯正下着の弊害は現代でもあまり変わらないものがありそうだなと思った。
2008/02/19 18:49:47	72P (60分)	
☆☆☆☆	136－138	
塩キャラメル	28-90, 230-260	文章に少し癖がありますが、図がたくさん載っているので分かりやすいです。気になった絵のあるページをぱらぱら読んでも大丈夫な本です。 おしゃれって時代が違うと本当に「イタイ」感じにしか写らないんだなあ、という部分もありました。また、映画や漫画に登場する見たことのあるアノ髪型の名前や発生過程が分かり、面白いです。
2008/02/18 21:05:06	94P (60分)	
☆☆☆	238	
大	28-141	文章よりも絵は見やすいし、イメージとして頭に入るためわかりやすい。 おしゃれとはいったいなんなのか。 おしゃれとださいは紙一重なのかもしれない。 そしておしゃれとは我慢なのかもしれない。 暑い、寒い、重い、動きづらい。 それらを我慢して、人と違うことをする。 私は機能性を重視したいけどな、、、
2008/02/17 19:03:59	113P (60分)	
☆☆		
紺	pp. 5-72, 126-141	この50冊の中では珍しい、1891年に出版されたパリモードの歴史をめぐる本。事実を淡々と述べるのではなく、著者の思い入れたっぷりに語っているので、引き込まれるように読める。 モードと建築の関係など知的好奇心を満たすだけでなく、実はファッションの参考になるのでおすすめ。 それにしても、ロビダ、絵がうまいです。
2008/02/14 15:33:08	84P (100分)	
☆☆☆☆☆	図版	
うたたね	23-51ページ,230-259ページ	絵をぱらぱら見てるだけでも楽しい。 著者が派手なモードに一方的に批判的なように見えるのが気になる。 個人的にはやりすぎな服装もスキ
2008/02/12 16:39:22	57P (30分)	

☆☆	28-59ページ	だけれど。。。
むうみん	28-51,92-120,126-139,144-168,176-193,200-225,230-259,264-297	要するにモードは愚行だと。そりゃ、政府も取り締まりたくなりますね。
2008/02/02 06:14:10	200P (90分)	
☆☆	233	
勉強だいすき	23-52,125-262,303-329	この本は、実に丁寧に各時代の最先端のモードを説明している。驚くべきことは、ドレスに金糸で作った刺繍や真鍮を使ったレース、シルクなどあたりまえなのだ。現代で主婦がそんなもの買ってたら主人は確実に離婚するが・・・。 しかし、最近のパリコレからしても大きく引きずるほどのドレスローブが発表されている事実からしても、序文にあるように『この世で最も新しいもの、それは、とことん時代遅れになったものの中にしかない』のとおりかもしれない。つまり筆者は、現代のファッションデザイナーはその過去の遺物をただアレンジしているに過ぎないということを結局は言いたかったのではないか。
2007/12/24 00:12:17	195P (170分)	
☆☆☆☆	155	
謎の男	p28-129	それぞれの表現が凄い。 なんでそんなことやるのかな？って思わず聞いてみたくなってしまう。 そこまでやらないとダメなんですかね？ なんか難しいですなぁ。
2007/12/23 01:05:22	102P (100分)	
☆☆☆	p43-58	
凱	1-52,172-301	頭のてっぺんから、足はつま先まで自己表現の道具。 いや、これは自己表現なのか？ 頭にあんなに重たいもの乗っけたら肩こらないのかな～。 ファッションに疎い人は知らない単語がいっぱい出てくるので絵を見て楽しんでみて。
2007/12/10 07:53:32	182P (150分)	
☆☆	絵！！！！	
弟子	全部	いつの時代でも、女性は美しさを追い求めるものなのだなぁ とりあえずネーミングセンスがすごい。気に入ったところだと「頭上公園」「頭上菜園」「昇天スタイル」「彗星スタイル」「ハリネズミスタイル」と、最後のだけは少年誌の主人公がそうですね。 とりあえず面白いところだけ読みたい人は、p230-262だけでも読んで下さい。船があります。 全部読んだ人に質問です。どの女性が好みでしたか？ 自分は、p192と、p345です。一押しはp192のほうです！
2007/11/28 02:38:54	332P (100分)	
☆☆☆	230-262	
きっとかっと	1-90	モードがモードである条件はモードであることのみ！ 何一つ新しい要素がない。けれど

2007/11/05 19:29:42	90P (60分)	それ以外の全てのスタイルは古臭い。それがモードだ。挿絵に描かれた中世の立体的スタイルを見たら、あんなにアバンギャルドに見えたフセイン・チャラヤンのテーブルになるスカートがすごい古典的に見えてしまう。記号的なものとの戯れを楽しめる強さを感じた。
☆☆☆	1-20	

ＴＯＰへ

排出する都市パリ泥・ごみ・汚臭と疫病の時代

著者名	アルフレッド・フランクラン	発行年	2007年
出版社名	悠書館	ページ数	273ページ
値段	2,200円	ISDN	978-4903487076

非キレイゴトのパリ。人がいっぱい集まれば、ゴミは増えるし、伝染病は流行るし、墓地だって必要。悪臭ふんぷんたるセーヌ川。人々はどう戦ってきたのか。ナマの当事者証言の重み。

読者投稿欄

コメント登録	□コメントだけを登録する
お勧め度	○☆　○☆☆　○☆☆☆　○☆☆☆☆　○☆☆☆☆☆
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ( ) 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

コメント登録

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
sya	pp.1-39	汚い！汚い汚い汚い！ ほかの人のコメントを見てそれなりに覚悟して読んだんですがねぇ…。
2008/02/20 01:08:34	39P (30分)	
☆☆	なし	

紺	pp. 11-15, 63-70, 106-115, 170-179	パリ、汚い。 要約するとこの一言で片付けられる一冊。どのページを読んでも同じことしか書いてなかったので、疫病に関する部分を拾い読みした。 が、同時期の江戸が衛生的な都市だったことを考えると、その差はどこから来るものなのか、はたまた新大陸の都市の衛生面はどうだったのか、疑問が広がってくる。 1890年に出版された本なので19世紀の事情が記されておらず、その部分も含めて興味が広がった本ではあった。
2008/02/18 21:13:42	33P (45分)	
☆☆☆☆	どこでも	
謎の男	7-40ページ	これは・・・エグイな。 汚い。ホントに読みたくない。途中で読むのやめました。 汚いのはホントに嫌だなと思いました。
2008/02/18 00:40:00	34P (15分)	
☆		
hiromitu	1-273	パリやロンドンなどの都市が、産業革命の時期に不衛生な環境だったというのはよく言われるが、どうやら産業革命以前からヨーロッパの都市は不衛生だったらしい。 １４世紀のパリでは一般庶民の家にはトイレがなく、道端で用をたすのが普通だった。今でこそ日本の都市は清潔だが、少し前まではきっともっと不衛生で汚かったのだろう。
2008/02/16 10:44:01	273P (180分)	
☆☆☆☆	17	
フェンリル	21-39	汚い、食事時に読むべきでないと多くの人が考えるだろう。 しかし、だからこそ人々が知らなくてはいけないのではないかということが書いてあります。 パリというと何かと花の都というイメージもありますが、これこそが裏の面なのではなく、仮面の下の真実の歴史ではないかという、考えるべき本。 このような本が今読むことが大事なのではないだろうか。
2008/02/14 07:47:12	19P (30分)	
☆☆☆☆	21-25	
テニスする人	1－18ページ	タイトルがド直球で衝撃が走りました！！ 当時のパリのひどさは有名ですが、文章で見るとそのひどさがなまなまと伝わってくる。
2008/02/13 02:44:50	18P (20分)	
☆☆☆	1－18ページ	
m	1-28,	凄いタイトルに惹かれて、ちょっと覗いてみました。 昔のパリは、ひどかった。なるほど、昔は法もなかなか通用しなかったわけで、清潔な街を手に入れるにはかなりの苦労があったのだな、と思った。
2008/02/13 00:12:49	28P (20分)	
☆☆	8-9	
announ	1-50	題名・・・インパクトありすぎ 文・・・最初にも書いてあるように、直訳多いので読みにくかった 読んでみたい場所・・・電車の中、カバーなしで・・・ ちなみに、電車の中で読んでみようと思いましたが、5分で断念
2008/02/07 18:45:31	50P (60分)	

☆☆		理由は、推して知るべし。
ガリレイ	pp.19-26 pp.44-48	想像していたほどトイレ話じゃなくて、残念。
2008/02/06 23:19:04	13P (10分)	
☆☆	pp.19-26	
きっとかっと	1-20	さらっと読もうとしたらなんか訳の言い回しが気になってどうも読みこめなかった。濫読向けじゃない？？
2008/02/04 20:21:54	20P (20分)	
☆☆	なし	
kazupi	1-168、269-275	中世のフランス，パリは汚物でまみれ，街を歩こうものなら頭上から容赦なく汚物が降ってきた．華の都と言われる現在のパリからは想像もできない状態であった．このような話は聞いたことがあったが，本書でそれが紛れもない事実であると分かり，驚きおののいた． 街の衛生状態を改善することは，当時の文化，宗教概念，疫病との戦いでもあった．数世紀を要した汚物との戦いの歴史にすぐに引き込まれていった．
2008/01/24 17:40:26	175P (90分)	
☆☆☆	序章	
ハイパー・ワイハー	2-232	野グソならぬ、路グソ。 １７ページに、そんな絵が描いてあります。 とりあえずさらっと全部読みましたが、「路グソ」の印象が強すぎました。
2008/01/18 17:50:05	231P (180分)	
☆☆☆	17	
弟子	1-95	初めに浮かんだ感想が「マニアックな本だ」 次に浮かんだ感想が「誰が読むんだろう？」 まあ、そんな本。 当時のベルサイユ宮殿にトイレが無かったって言うのは有名な話。その時代のパリの衛生についてつらつらと無駄にリアルな描写で語られています。それにしても（パリ・モードの本もそうだったけれど）意外とみんなパリ市民て法令無視してますね。わがままだなぁ。
2008/01/09 02:53:39	95P (60分)	
☆☆☆	1-28	
凱	1-52	正直気分のいい読み物ではないです。 何かをつまみ食いしながら読まないほうがよろしいかと。 勇気のあるタイトルだなと思いましたが、ほんとにそんな感じ。 ほんとに気分は良くないです。
2007/12/22 21:44:13	52P (60分)	
☆☆	22-23	
むうみん	2-28ページ、42-73ページ、98-149ページ、170-232ページ	一通りさらさらと読みました。半分くらいが補遺です。 １８世紀以前のパリは相当酷いことになってました。読んでいくごとに内容がエスカレートしていきます。現在のパリの微塵も感じられないくらいです。だから、オスマンのパリ改造も必要だったので

2007/11/06 14:04:00	174P (200分)	しょう。 読んでなるほどと思ったのは『W.C』の由来くらいです。本当にクローゼットなんですね。 ナーバスになりたい方はぜひどうぞ。
☆☆	137-139ページ	

ＴＯＰへ

大英帝国という経験

著者名	井野瀬久美恵	発行年	2007年
出版社名	講談社	ページ数	362ページ
値段	2,300円	ISDN	978-4062807166

植民地アメリカを喪って大打撃のはずなのに、そのあと世界制覇を成し遂げ得た奇跡。うねりの波間に浮かぶアイルランド貴族のフローラやアフリカ奴隷のサラ、そしてもちろんクイーン・ヴィクトリア。大英帝国万華鏡。

読者投稿欄

コメント登録	□コメントだけを登録する
お勧め度	○☆　○☆☆　○☆☆☆　○☆☆☆☆　○☆☆☆☆☆
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ( ) 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

コメント登録

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
こわい	巻頭写真＆絵・131-147	巻頭写真エドワード・コルストン像に惹かれ第4章の一部を読んで見た。写真の説明書きで内容は想像できたが。
2008/02/20 09:37:12	17P (15分)	面白かったのは、コーヒーハウスが砂糖の消費だけでなく、奴隷貿易参入に大きく関わっていたという事実だ。『砂糖の世界史』でも語られていなかったので（コーヒーハウス自体は記述があった）興味深かっ

☆☆☆☆	巻頭写真・131-147	た。 時間があれば読破したい1冊である。
Nothing to lose	1-22	今のイギリス人が歴史から何にを学んだのは知りたくなってきた…
2008/02/12 21:00:10	22P (60分)	
☆☆☆☆	特に無し	
弟子	1-104	コメントを書こうとして他の人のコメントを読み、筆者が女性と知って驚きました。いや別に男尊女卑な表現ではなくて。 世界史と日本史だと日本史のほうが好きでした。高校で習った世界史という教科は、ひとつの時代で複数の地域を同時進行させるのでどうにも頭に入ってきませんでした。その点日本史は、世界大戦までは登場する国がほとんど日本一国だったので分かりやすく理解しやすかったからです。でも今でもなぜ第一次世界大戦が世界大戦なのかよく分かりません。ごちゃごちゃと国が登場するから分かりにくいのです。 その点この本は「イギリス」正式名称グレートブリテン連合王国のひとつに絞ってあるので分かりやすかったです。 「および北部アイルランド、は入らないのか」とおっしゃった皆さん。入らないんです。この時代には。
2008/01/28 02:06:40	104P (60分)	
☆☆☆☆	78-82	
トーマス	1-56	私が読んだあたりは大体七年戦争からアメリカが独立するまでの詳しいプロセスが様々な視点から描かれていた。当時イギリスはかなりの借金大国であったようだが今の日本よりはましだろうなぁとかいうくだらない事を考えつつ読んでいたのだが本のあまりの重量感に挫折。無念。
2007/12/29 14:46:05	56P (60分)	
☆☆	なし	
むうみん	23-130ページ、175-227ページ、271－367ページ	19世紀から第二次世界大戦後あたりのイギリスを中心としながら大英帝国の歴史がよく描かれていると思う。もちろんイギリス内の諸問題も取り上げられているが、世界史では教わらない属国のディープなところに入り込んでいける。かなり大英帝国内諸国のつながりが見えてきました。 筆者が女性ということもあって女性が主人公となる章があったりして面白い。 ただ、現代に繋がるように読もうとすると全体を読まないと見えてこないことが多い。歴史だからしょうがないのかもしれないが。
2007/11/22 05:25:08	258P (300分)	
☆☆☆☆	274-281ページ	
hiromitu	1-66ページ	少し前に、世界史を履修していない高校生が大学受験資格を得られるとかなんとかで問題になりましたが、何を隠そう自分も世界史を履修していなかった高校生の一人です。 　自分の読んだ場所は、アメリカがイギリスから独立した時代的背景について書かれていましたが、基本的な世界史の知識に乏しい僕にとって正直？？？なところが多かったです。 　途中で挫折しました。 　ろくなコメントじゃなくてすいません。
2007/11/04 13:06:54	66P (120分)	
☆☆	あまりない	

ＴＯＰへ

トラファルガル海戦

著者名	ジョン・テレン	発行年	1979年
出版社名	原書房	ページ数	294ページ
値段	1,800円	ISDN	978-4562037797

ネルソン提督の最大の仕事は敵フランス艦隊の居場所を捕捉すること。果たして敵はエジプトか、はたまた大西洋の彼方なのか。行動範囲に情報網が追いつかない時代特有の右往左往の海戦ドラマ。

読者投稿欄

コメント登録	□コメントだけを登録する
お勧め度	○☆　○☆☆　○☆☆☆　○☆☆☆☆　○☆☆☆☆☆
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ( ) 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

コメント登録

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
キングジョー	1－72	各証言ごとに詳しく書かれており、つらつら読んだ結果、どこまで読もうか悩んでしまった。 ８までで断念したけど、もっと読んでもよかったかな。いや、あんまり面白くなかったし賢明かな。
2008/02/19 22:57:40	72P (60分)	
☆☆	特には・・・	
塩キャラメル	2-13	昔必死に勉強した世界史の知識が、もう既に忘却の彼方に去っている現在大学院修士1年生のわたくしには、この始終くそまじめで冷静に徹して

2008/02/19 11:36:42	12P (10分)	いる文章を読むのは結構つらいものがある、と敗北を認めざるを得ません。濫読に向いている本でもないような気がします。
☆☆☆	2？	
ひいら	1-8	うーん、あまり読みたいと思う作品ではありませんでした。
2008/02/19 04:15:30	8P (10分)	
☆☆☆	1-8	
フェンリル	24-35	読みにくいというか結構期待はずれなものです。 決してつまらないというわけではなく、普通なのですが、タイトルからどうしてもインパクトある海戦を想像してしまい。現実の地味さを体感しました。 まぁ、戦いに華やかさなんてないんですよねと、改めて実感しました。
2008/02/14 07:52:22	12P (20分)	
☆☆	なし	
テニスする人	284－289ページ	ネルソンのすごさは伝わってきた。 英雄はいるのだと思った。
2008/02/12 22:21:26	5P (10分)	
☆☆☆	284－289ページ	
ガリレイ	pp.222-237	なにがなんやら、さっぱり。陣形が全く想像できない。
2008/02/06 23:20:19	16P (10分)	
☆☆	pp.222-237	
kazupi	222-294ページ	数ある戦艦の位置を把握しながら読み進めるのはなかなか困難であるが，ネルソンをはじめとするイギリス艦隊の戦いっぷりは読み応えのあるものであった. 日本海海戦で東郷提督は，バルチック艦隊に対して自分の艦隊を「丁」の字の横棒になるようにする丁字戦法をとって戦況を有利に進めた. その100年前に行われたトラファルガル海戦ではまったく逆で，ネルソン率いるイギリスの艦隊は「丁」の字の縦棒になるように突っ込っこむ戦法をとって勝利を収めた. 日本海海戦とトラファルガル海戦は同じ戦法で戦ったと思い込んでいたので，この事実を知ったときは大変驚くと同時に，同じような隊列をとってもまったく戦況が変わってしまう海戦術の奥深さを知ることができた.
2008/01/31 15:43:09	73P (60分)	
☆☆☆	222-294ページ	
凱	222-302	とりあえず、艦の名前が細か過ぎて（ファンにはたまらないのでしょうが・・・）すごく頭を使いました。空間的IQが高くないと状況を把握するのは結構厳しいかも。 その代わり、とても濃密であることは間違いないです。 「誰にとっても生命くらい大切なものはないんだ！」
2008/01/24 12:32:31	81P (150分)	
☆☆☆	243-244,255-257	
トーマス	62-166	この本を読むまでネルソン提督を知らなかった自分を恥じようと思う。 簡単にまとめるとこの本は海戦の外側から内側までをまとめた一冊で、ネルソンがスーパーマンチックに描かれている。ただし「高枝切りばさみ」さんや「Who will I be?」さんの言うように確かに日本語が読みにくい。
2007/12/23 12:31:49	105P (80分)	
☆☆☆	124-166	
Who will I be?	1-302	かの有名なネルソン提督の価値観、ネルソンはなぜこれほど名声を得たのか、書かれている。 客観的に書かれていて、まさにノンフィクションといった風情。 ただ、日本語がわかりづらい。
2007/11/22 14:53:10	302P (600分)	
☆☆☆	なし	
高枝切りばさみ	1-289ページ	当時の欧州の国際事情、ネルソンやナポレオン等の重用人物の状況といった、バックグラウンドを説明しながらトラファルガル会戦を解説している一冊。 序盤は基本的にバックグラウンドの説明に終始しているので、戦記のつもりで読むと余り関心のないことも多く正直退屈。本格的にトラファルガル会戦へと向かっていく3章あたりから面白くなってきたなと思います。 あと訳書なので仕方が無いのかもしれませんが、理解できないというほどではないにしても、なかなか読み辛い日本語で書かれていて、面白さよりも先にそちらが目立ってしまうのが難点です。
2007/11/05 11:47:05	289P (600分)	
☆☆☆	なし	

ＴＯＰへ

ヒトラー最後の12日間

著者名	ヨアヒム・フェスト	発行年	2005年
出版社名	岩波書店	ページ数	242ページ
値段	1,900円	ISDN	978-4000019347

史実を掘り起こした長めの章とそれを考察した短い章を交互に配置して、とある巨大な世界の崩壊の原因へと降りてゆく。ヒトラー＝大悪人と単純に塗り潰して満足する歴史観が、60年を経て、ようやく超えられようとしている。

読者投稿欄

コメント登録	□コメントだけを登録する
お勧め度	○☆　○☆☆　○☆☆☆　○☆☆☆☆　○☆☆☆☆☆
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ( ) 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

コメント登録

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
sya	第1章以前のまえがき等, pp.1-80, pp.99-164	『ヒトラー＝悪』というのが世間一般の認識である。 確かにヒトラーは許せないことをした。 だが、この本はそのような事実を踏まえながらもヒトラーをとても人間的に描いている。 別の授業で映画版を見たが、映画版の方はヒトラ
2008/02/20 00:44:40	157P (180分)	

☆☆☆☆	一二日間の主な出来事	ー役の人間がまさにわれわれの想像するヒトラーであった。 映画版と比べてみるのもいいだろう。
うたたね	1-50	絶対に彼を認めることは出来ないのだけれど、自分とは全く関係ない異常者として片づけてしまう事も出来ない。 それは多分、多くの人に破滅への憧れが、ほんの少しだけあるからだと思う。 でもやっぱり…破滅するなら一人でしてくれって思う。
2008/02/19 17:08:08	50P (30分)	
☆☆	1-50	
ひいら	1-242	一人の男の断末魔。 あらゆるものを巻き込みながら滅亡へと一心不乱になだれ込んでいく様を、息を呑んで見届けるしかなかった。 怖さよりも恐ろしさよりも、得体の知れない「なにか」があるように思った。 「われわれは滅亡するかもしれぬ。だがその時は一つの世界を道連れにしてやる」。 勝利か、破滅か。その二択をここまで突き詰めた歴史はこれ以外にない。 ちなみに立ち読みポイントは、ヒトラーが自殺して遺体が焼却される部分。
2008/02/19 17:05:10	242P (240分)	
☆☆☆☆☆	139-148	
弟子	207-244	どこかの小説のファンタジーで「子供たちに戦争についての学習をしなければきっと子供たちは戦争を知らないまま育つ。すると将来戦争をすることは無いだろう」と子供たちに戦争について学習させないままにしたところ、結局戦争が起こってしまった。という話を思い出しました。 今このことが、多少形は違えど、現実に起ころうとしています。ドイツ国内で子供たちがヒトラーについて正しい知識を得る機会が減っているのです。ヒトラーについて、名前は知っているこれども何をした人なのかは知らない。もっとひどいとヒトラーがドイツにいたことすら知らない子供もいたそうです。この本はこのようなドイツ国内での教育に一石を投じるような本です。ヒトラーという人物について、歴史の教科書の一項目ではなく、人間として書かれている本です。
2008/02/18 20:35:51	38P (20分)	
☆☆☆	241	
謎の男	30-77ページ	悪名高いヒトラー。典型的な独裁政治をやってのけたのはある意味天才かもしれない。 しかし、賛成はできませんな。
2008/02/18 00:38:13	48P (20分)	
☆☆☆		
大	1-80	ヒトラーはやはり虐殺という面で大悪人である。 しかしながら誰もが独裁したいという願望を持っているのではないか。 それを実現したヒトラーはすごい人間である。 独裁という言葉についてとても考えさせられる一冊。
2008/02/17 18:49:39	80P (100分)	
☆☆☆		
フェンリル	51-80	もっともゆっくり読みたい本の一つ。 何とも読みやすく、それはまずはテーマのおもしろさ、また書き手のうまさがあると感じるという本。 ヒトラーという歴史的悪役のもっとも人間らしい部分に触れるこの本が訴えてくることは今の私にはまだ理解できていないだろう。 なんども読み返して考えたくなるような本である。 もちろん☆５！
2008/02/14 07:50:01	30P (20分)	
☆☆☆☆☆	すべて	
O'rei	1-80,150-164,196-205,	ヒトラーの破滅への意志。 最も原始的で、自然な弱肉強食への回帰。

2008/02/11 14:21:18	105P (120分)	その思想の強靭さと途方もなさに驚いた。 だが、一貫性はある。そして、読んだ後に引っかかる何か。 狂っていると断じても仕方がないのだろう。 この引っかかりはナンなのだろうか・・・。
☆☆☆☆	150-164	
高枝切りばさみ	まえがき	最初の主な登場人物の多さに少し頭を痛めつつ、前書きを読んでみたけれども、実に面白そうで、本編をじっくりと読んでみたいと思った。私にこの本をじっくり読む時間がないのが惜しまれる。
2008/02/06 10:11:01	10P (15分)	
☆☆☆☆	とくになし	
Nothing to lose	1-50	ヒトラー最後の日々につてい沢山の本がいろいろなこと書いてある。私も沢山読んでます……全部小説として読んでます。
2008/02/03 22:15:58	50P (100分)	ヒトラーが自殺し、自分の命令で焼かれたのは圧倒出来に証拠が多いからです。 しかし、小説といっても読みがちがある。。。これからまた沢山の人がヒトラーで生きていくでしょう（ヒトラーの本を書いたり、ヒトラーの事を研究したりするから）。
☆☆☆☆	30-50	
市戸瀬	52-164	「なぜなら俺たちはドイツを、そして明日には全世界を破壊するからだ」 ヒトラーのこの破滅への意志は本当に強靭なもので、「狂っている」の一言では済ませられないと思った。
2008/01/30 13:00:00	113P (130分)	
☆☆☆	第6章「破滅への意志」	
黒猫	v-xxix,2-244	絶対悪としてしか知らなかったヒトラー．．．彼の最期の12日間を詳細に記した本です。 衝撃を受けました。Σ(・Д・) 改めて思ったのが、今まで私がヒトラーについて知ってるコトは、全て彼が悪という大前提の上で語られていている資料から得たモノだったという点。 そして、ヒトラーも私達と同じ1人の人間だというコトを忘れていた点。
2007/12/23 15:33:38	268P (180分)	
☆☆☆☆	第7章	彼があの悪魔のような所行を行った理由も考えず、ただヒトラー=完全悪と見なして追究をストップしてしまっている世界の風潮．．．この本はそんな世界に新しい価値観をもたらすと思います。(｀・ω・´)
ガリレイ	35-206ページ	この手の本を読むと、必ず地名と人名に悩まされる。今回も例外ではなかった。 ヒトラーが日本に亡命したとか、南極で生きているという話は結構好きだったが、それも今日でおしまい。
2007/12/12 10:15:06	171P (180分)	
☆☆☆	139-143ページ	
チョコボール向井	1-205	ユダヤ人を含めたすべての弱者を「反」人間的な冷酷さで消し去ったこのアドルフ・ヒトラーという男。このヒトラーという男のカリスマ性、絶対的な指導力がひしひしと伝わってきた。彼の決断力、その決断を通しぬく意志には正直驚くばかりだった。
2007/12/06 00:59:53	205P (240分)	
☆☆☆☆	100-164	
m	xix-xxvi, 1-102, 140-244	万一われわれが勝利できないようなことがあれば、 「その時は、われわれ自身が滅亡するだけでなく、世界の半分を滅亡の道連れにするだろう」。 そして今、ヒトラーはこの予言の実現にとりかかろうとしていた。
2007/11/19 01:26:50	214P (200分)	第一章の終盤。敗戦間近とはいえ、この訳の分からない、混沌とした状況は何なのか。その疑問は、第一章最後のこの四行で、続きを読みたい気持ちに変わった。

☆☆☆☆	30-34, 42-50, 196-205	すらっと小説のように読める一方で、所々散りばめられた「証言の矛盾」の記述や、解説の章が、この物語は歴史に他ならないことを思い出させてくる。ヒトラーと聞くと、一言で悪人と表わされてしまうことが多いが、この本はその末期を人間主体で丁寧に描写していて、歴史は視点によってこれほど違う物語になるのか、と感じた。
テニスする人	1-97ページ 149-164ページ	ヒトラーは狂っていたかと聞かれれば、やはり狂っていたと思う。しかし、それは当時のドイツの極限状態を考えれば、致しかたない部分もあるのではないか。ヒトラーも人間であり、ただ単に「狂っていた」の一言で済ませてはいけないことをこの本は教えてくれた気がする。
2007/11/11 22:44:06	113P (120分)	
☆☆☆☆	149-164ページ	

ＴＯＰへ

シャドウ・ダイバー

著者名	ロバート・カーソン	発行年	2005年
出版社名	早川書房	ページ数	495ページ
値段	2,200円	ISDN	978-4152086488

潜る。不安定な装具に身を預け、おのれの体力と判断力と強運だけを信じて、ひたすら潜る。そうやって深海のUボートの謎を解き明かしてみせた男たち。

読者投稿欄

コメント登録	□コメントだけを登録する
お勧め度	○☆　○☆☆　○☆☆☆　○☆☆☆☆　○☆☆☆☆☆
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ( ) 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

コメント登録

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
弟子	485-501	本当に、男の人というのは、こんなことに命を使って、無駄だと思わないのかしら。
2008/02/19 13:26:40	17P (10分)	
☆☆☆		
大	1-110	授業で取り上げられていたのでとても読みやすかった。 あるかわからないものをひたすら追い求めるその姿に、 男のロマンを感じた。
2008/02/17 18:30:24	110P (100分)	
☆☆☆☆		

黒猫 2008/02/15 23:06:15 ☆☆☆☆	485-501 12P (15分)	私もエピローグだけ読みました。 精神力がすごすぎる！ 私には無理です。
テニスする人 2008/02/12 21:35:20 ☆☆☆	485－501ページ 16P (20分) 485－501ページ	エピローグ読みました。 そこだけでも、Uボートに対する男たちの熱い思いが伝わってきた。時間があるときにしっかり読んでみたい。
ひいら 2008/02/04 06:23:08 ☆☆☆☆	1-18、485-501、517-524 43P (20分) 485-501	「気にかけてくれてありがとう」「わざわざ来てくれてありがとう」…… 戦争が終わっても、人々の中に記憶は生きつづける。それが戦争。
すらいむ 2008/01/18 13:05:28 ☆☆☆☆	59-84 26P (10分) 60-64	地上では無害な窒素が突如人間に牙を剥く深海という環境。ダイバーの肉体と精神の戦いがリアルに描かれているところがとても面白いですね。
チョコボール向井 2008/01/16 01:14:28 ☆☆☆	全部 527P (720分)	男のロマン溢れる情熱的な話だった。同じ男である以上私も何かひとつのことに熱中したいと思った。ほんの小さな手がかりからあんなに壮大なドラマが生まれるとは本人も思わなかっただろう。どんなちいさい事におおきなドラマが待っているかわからないということを教えてくれて私もちいさなことに目を向けてみようと思った
のだめ 2008/01/15 09:35:29 ☆☆☆☆	1-120 120P (150分) 78	Uボートを発見しみんなで内緒にしようと誓うも、やっぱりそういう秘密ってついついばらしたくなるもの。ここについつい共感してしまった。
フェンリル 2007/12/17 04:57:47 ☆☆☆☆	全部 527P (600分) 157-194、299-311	長い、長い話だった。まるで、フィクションのような現実離れした冒険譚。男なら、いやたとえ女性でもロマンを持つならこの話の虜になるあろう。 　緊張感ある展開が読者を離さない。これがすべて現実に起こったことだ言うのがまだ信じられない。そこら辺に転がっているファンタジーよりもドラマティックなこの本を是非一読してほしい。 　惜しむべきは、専門用語の多さと覚えきれない登場人物の多さが少し読みにくさを強めてしまう。しかし、それでも星４つ
トーマス 2007/12/16 22:57:09 ☆☆☆	1-84 84P (80分) 59-84	本が分厚すぎて肝心の部分まで読む気がなくなってしまった。が、ディープレックダイビングの中身や恐怖については知ることができた。豆知識の一つとしていいかもしれない。
凱 2007/12/10 08:17:07 ☆☆☆☆	1-223 223P (300分) 132-134	立ち読みポイントは本論とは全く関係ないかもしれないが、このストーリーの根幹にもなっているかもしれないところを選びました。 Uボートの謎解きにたくさんページが割かれているのかと思いきや前半の200ページちょい（私が読んだところ）は人物のヒストリーでほとんどが占められている。 それだけでもお腹一杯になってしまった。 お腹空いたらまた続きよもっと。
ぺんね 2007/11/12 01:54:08 ☆☆☆	60-122ページ、440-490ページ 112P (60分) 475-485ページ	授業を聞いてみた以上に興奮する文章。なにかに取り憑かれたように探索をする彼らがどんどんカッコよく見えてきます。幾多の苦境にぶつかり、謎を解くという事の難しさも実感できます。

ＴＯＰへ

戦争広告代理店

著者名	高木徹	発行年	2002年
出版社名	講談社	ページ数	405ページ
値段	619円	ISDN	978-4062750961

世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？

読者投稿欄

コメント登録	□コメントだけを登録する
お勧め度	○☆　○☆☆　○☆☆☆　○☆☆☆☆　○☆☆☆☆☆
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ( ) 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

コメント登録

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
うたたね	13-50,256-317	個人を上げたり落としたりしてるだけかと思いきや、メディアが国の運命まで変えてしまうとは。 真実を知ることってできるんだろうか。 「世の中ショービジネス」（CHICAGOより）って言葉が読んでる間ずっと頭に浮かんでました。
2008/02/19 16:54:04	98P (40分)	
☆☆☆	38-50	

o	1-404	読み物としておもしろい。 善と悪は、絶対的なものではなく、相対的なものだということを感じた。相対的だからこそ、ＰＲによりそのバランス関係が動かされる。このような誰かに色づけられた情報に対して、「個人個人がメディアリテラシーを身につけ、得られた情報を精査し、善悪を判断するようにする」とは鳥の目で見た解決策であると思う。解決へ向けて行動しようにも「一個人が個人個人をどうやって動かすの？」という方法論がついてまわる。これまた情報戦略こと訴えかけに頼らざるを得ない。 だから、ＰＲの本を読んで思うことは、ＰＲはすごいパワフルだよ、ということに尽きる気がする。メディアリテラシーを正しく身につけるべきは自分で、意見を主張したかったら、戦略的な情報の伝達が必要なのですよ。自分への教訓として。
2008/02/19 15:21:03	404P (360分)	
☆☆☆☆☆	スラッと立ち読める	
ひいら	1-17	一言で言えばエグい話。固定化した形のない「広告」というものの、底知れぬ怖さを感じた。 それにしても日本の問題が起きた後に後手後手になる体質は何とかならんもんか。
2008/02/19 04:07:19	17P (10分)	
☆☆☆☆	1-17	
大	1-404	私たちが毎日必ずと言っていいほど見かける広告。 この世の中にあふれている広告が、戦争の道具として使われるとは考えもしなかった。 しかもその影響は勝敗も左右してしまうほど。 私たちもいつの間にか広告に洗脳されているのかもしれない。 しっかりと自分の目で優劣、善悪を見極めることが大切だと感じた。
2008/02/17 18:26:16	404P (300分)	
☆☆☆☆		
hiromitu	1-404	私たちが政治や社会に対して持つ意見にマスコミが与える影響は大きい。最近捏造されたTV番組やバラエティー番組が問題となるケースが多いが、日本の報道に携わる人達は、自分が日本の国の世論を動かすだけの力を持っているということを自覚しているのだろうか。
2008/02/16 12:00:14	404P (420分)	
☆☆☆☆		
黒猫	13-207	私達が善悪を判断する基準をメディアが操作している、と改めて実感。 しかも、私はそれを自分の考えだと思い込んでいるというトコロが怖い。
2008/02/15 22:37:48	195P (130分)	
☆☆☆☆	13-17	
O'rei	20-131,182-235,256-278	PR戦争は真実や公正さを追究するものではなく、どうすれば正しく見えるかを追求するものである。あくまで自分の目的のために必要な情報を取捨選択し、適切な手段を用いて伝達することのみが大事なのである。目的に障害となる人物が現れれば、世論を動かし排除するまでである。 　情報は、伝達方法によって人々に与える影響が雲泥の差があることを実感した。真正面から周りを動かそうとしてもうまくいかない。自分をPRしてからではないと周りは動かないのである。ハーフは情報を巧みに操作、伝達し世論を味方につけることに成功した。自分の思惑通り人々が熱狂に包まれていく様を笑いながら見ていたはずだ。怒りに燃える世論と笑うハーフの対比がそら恐ろしかった。 　PRは非常に恐ろしいものだとわかった。はっきり言って汚いやり口だ。しかし、だからといって周りは自ら公正な事実を追求しようとはしない。自らが声を高くして訴えなければ、周りは理解してくれないのである。一般人レベルで言えば、そこまでしなくてもいいと思うが、国家レベルになればPRは必須条件だろう。君主論でも言われてい
2008/02/10 10:26:25	188P (120分)	

☆☆☆☆☆	209-213,104-108,195-196,267-276	るように、トップはずるくなければならないのだ。俺個人として言えば、大衆の熱狂にだけは巻き込まれないように冷静な思考を持ち続けるよう心がけようということだ。
ガリレイ	pp.5-131,pp.151-384	世論はマスコミによって作られているということが改めて良くわかる作品。登場人物は倫理観にそむかないように、世論を導いている・・・といっているが、結局その倫理観はお金で決まっている気がする。
2008/02/06 23:32:09	361P (180分)	
☆☆☆☆	pp.21-23	「正義がアメリカ」じゃなくて、「アメリカが正義」なんだと再認識。
高枝切りばさみ	全部	この本を読んだ私の率直な感想は「恐ろしい」の一言に尽きる。この本でジム・ハーフが振り回した「情報」という矛の威力は筆舌に尽くしがたいほど絶大で、一つの国家を地獄に叩き落とすほどの代物だった。私が恐ろしいと感じたのはその威力そのもの以上に、それが日本に向けられたときのことを考えて思ったのだ。今の日本がこのような攻撃に晒されたならば・・・セルビアの二の舞となる姿が目に浮かぶようだ。果たして日本が情報の重要さに気付き、一皮剥けるのはいつのことか。その日が早く来ることを願わずにはいられない、そういう気持ちにさせる一冊だった。
2008/02/04 22:05:09	405P (420分)	
☆☆☆☆☆	とくになし	
市戸瀬	全部	ボスニア紛争における「情報戦」の記録。 リーダビリティも高く、とても面白かったです。 まるで良質の推理小説を読んでいるような感覚でした。 ただ、この感想そのものが、日本における「PR」の存在を物語る気がします。 私の中にPRの概念がまだ根付いていないので、この情報戦を「絵空事」のように感じてしまうのでしょう。それは日本の個人・企業・政府においても同じなのではないでしょうか。まだPR戦略の重要性が浸透していないように思えます。 日本はこのままで世界と戦えるのでしょうか。
2008/02/03 00:29:13	304P (180分)	
☆☆☆☆☆	第6章「民族浄化」	
ぺんね	1-208	言葉の持っている力の大きさに愕然とされる。現代の世界にも散りばめられているメディアも何か裏のあるものなのではないかと疑ってしまう。 講義で紹介される事によってこれだけの人がこの本を読む事によってもメディアの恐ろしさは実感できた。
2008/01/27 13:44:31	209P (150分)	
☆☆☆	100-102	
kazupi	1-184ページ	日本人にとってPRは比較的新しい概念であり，PRにあたる日本語が未だにないことに象徴されるようにPRをうまくできる日本人は少ない．またPRがただの広報ではなく双方向のコミュニケーションによって成立するという本来の意味を知っている人も少ない． 本書では国をめぐった壮大なPR合戦が綴られているが，国家間のような巨大な規模であってもPRは今も世界中で当たり前に行われていることである．日本人はこれを読んで驚いている場合ではない．
2008/01/24 17:57:12	184P (120分)	
☆☆☆☆	全ページ	
チョコボール向井	全部	メディアに簡単に操作される世論、簡単に人々を操作できてしまうメディアの濃厚な関係を思い知らされました。何が本当の情報なのか、ニュアンスしだいでそれが揺らいでしまうということに驚きました。
2008/01/21 01:04:07	304P (300分)	
☆☆☆☆	179-180	
pudeo	全部	印象深いのは、各章に付けられた表題と終章でした。表題は、各章の内容が集約されているのですが、はじめに見ただけですとよく分からないので読み手の興味をそそると思います。（とりあえず私はそそられました）終章のはじめの「決裂」はあっけないですが、現実を感じてしまいました。 ストーリーは興味ぶかく読みやすいですが、結構しつこい部分があるので、お勧め度は星３つにします。 立ち読みポイントは序章です。（文庫じゃない方を読んで
2007/12/27 17:36:59	304P (240分)	

☆☆☆	序章	しまったのでページ数が分かりません。申し訳ありません。私の読んだ方だと2-5ページなんですが。）
勉強だいすき	67-131	民族浄化というたった一言で、日本のことさえ見る気もしないアメリカ放送業界が、一斉に食らいついていく様に、私は人の哀れさを感じた。そして、その流れを見越したジム・ハーフが情報をピンポイントで流していく。ここまでして、放送業界のトップになりたいのかと人格を疑うほどである。しかし、ジム・ハーフのずる賢い手腕は驚愕に価する。 また、「三人のジム」が一人一人の単独行動を行っているから、わざわざ「三人の」はいらないんじゃないか。ただ単に、威厳を強めたかったという作戦だったのではないか。
2007/12/20 15:12:35	64P (60分)	
☆☆☆☆	95-100	
のだめ	4-150,255-278	第12章は、ほんのわずかに関わりを持ってしまったために、定年を待たずに退役せざるを得ない状況においこまれた人の話です。ＰＲ企業に目をつけられたら、一巻の終わりということが描かれています。不用意な発言には要注意です。
2007/11/29 12:53:52	180P (120分)	
☆☆☆☆	89-108,255-278	
m	13-50, 89-180, 370-405	「情報を制する者が勝つ」とは、よく言われることだが、これだけのスケールと迫力をもってそのPR戦・情報戦の現実を見せられると、ただそう言われるのとは比べものにならない生の実感が残る。だからこそ、日本はこのままではまずい、という筆者の主張も説得力をもって伝わってくる。
2007/11/18 10:57:37	166P (140分)	
☆☆☆☆☆	179-180	
謎の男	1-388	これは面白い！！ 言葉で戦争が起きる・・・非常に恐ろしい事だけれども現実として起こりうる。ＰＲというのは時には悪にもなってしまう事を痛感させられました。 意外とスラスラ読めてしまいますよ＾＾
2007/11/08 22:30:42	388P (420分)	
☆☆☆☆☆	135-138ページ、213-220ページ	
テニスする人	20-384ページ	現代社会における情報の強さ、PRの恐ろしさを実感した。 PR＝世論という、世界の動向を決めているのは実はPR会社なのでないかという認識を持ってしまう。一つのキャッチコピーで世界が動かされていくことに驚いた。
2007/11/08 12:51:37	364P (300分)	
☆☆☆☆☆	68-87ページ	本嫌いな私が、ほぼ最初から最後まで読むことができたので☆５つで

ＴＯＰへ